

## 第2学年 外国語活動（英語活動）指導案

日 時： 平成21年10月8日（木）公開授業 I  
児 童： 男6名 女18名 計24名  
指導者： 担 任 小 林 恵 理 （T1）  
          支援員 多 田 けい子 （T2）  
場 所： 2年教室

### 1 単元名 自分だけの動物園を作ろう

### 2 単元について

本単元では、自分が住ませたい動物を“～,please.”という表現を使って集め、自分だけの動物園を作る活動を設定した。児童が生活の中で聞き慣れている「ライオン」「コアラ」などの動物や好きな動物を題材に取り入れることで、新しい言葉に対する抵抗感が少なくなると考えた。また、自分だけの動物園を作るという場面設定により、児童は自分の思いをしっかりと持ち、自分から進んでコミュニケーションをしようとすると考えた。飼育員と動物をもらいに来る役を交代で行い、動物を集める活動を行うことにより、友達に自分の思いを伝えることができたという喜びを経験させたい。また、好きな動物を集めることができたという達成感を味わわせたいと考える。

児童は、外国語活動の時間が大好きである。英語の歌やチャンツやゲームなどに楽しく取り組んでいる。これまで、ALTや支援員の先生と簡単な英語表現の会話を楽しんだり、自分の思いを伝えたりする活動に、進んで取り組んできた。けれども、新しい言葉を使って会話する場面では、不安になり消極的であったり、声を出さなかったりする児童も見受けられる。

そこで、本単元では、児童の大好きな動物を扱い、聞き覚えのある単語をいくつか入れて活動を行うことにした。導入では、「もしキリンやライオンがペットだったらどうなるだろう。」というストーリーの外国の絵本「My Pet」を見せ、動物に興味を持たせる。次に、「絵本のように、自分がペットにするとしたらどんな動物がいいか。」問いかけ、「好きな動物を集めて、自分だけの動物園を作ろう。」と呼びかけることで意欲とイメージを持たせる。そして、自分が住ませたい動物を集めるために、新しい動物を表す単語にも意欲をもって取り組めるようにする。

そして、本時の活動では、学級の動物園をみんなで力を合わせて作り十分に活動のイメージを持たせた後で、自分だけの動物園を作る活動を行う。飼育係と動物をもらいに来る係を交代で行い、自分が欲しいと思った動物をもらいに行く場面を設定し、“Here you are.” “Thank you.”といった相手との関係を円滑にするようなコミュニケーションの英語表現にも親しませたい。また、自分の言いたい動物を忘れたときには、“～ in English？”の表現を使って支援員の先生に聞きに行くようにさせ、分からないときでも自分から積極的にコミュニケーションをとることができるようにしていきたい。（場の設定）

教師の評価では、活動ごとに意図的にほめる場面を作り意欲を高めたい。また、めざす姿が具体的に分かるように視点を取り上げてほめていきたい。ご褒美カードを用い、活動への意欲を高めるとともに、達成感も持たせていきたい。（評価の工夫）

### 3 単元の目標

動物を表す単語に親しんだり、進んで自分の思いを伝えようとしたりする。

### 4 単元の評価規準

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・進んで自分の欲しい動物を伝えようとする。
- ・自分の動物園を紹介しようとする。

5 単元計画  
 <あすなるタイム 15分×6 本時 45分×1>

時	目標と主な活動	言語材料	
		表現	語彙
あ す な ろ 1	○自分だけの動物園を作りたいという意欲を持つ。 ・「My Pet」の絵本を聞く。 ・絵本に出てきた動物を確かめる。 ・自分だけの動物園を作るとい う学習の見通しを持つ。		My Pet, hippo, lion, giraffe
あ す な ろ 2	○ゲームをしながら、新しい動 物を表す単語に触れる。 ・何でしょうゲームをする。 ・英語の表現が分からないとき の尋ね方を使い、動物を表す 単語に触れる。 ・好きな動物を決める。	～ in English, please?	koala, monkey, panda, elephant, rabbit, bear, gorilla
あ す な ろ 3/4	○ゲームやチャンツを通して動 物を表す単語に親しむ。 ・チャンツをする。 ・ゲームをする。		
本 時	◎自分が欲しい動物を進んで相 手に伝え、集めようとする。 ・飼育係と動物をとりに行く係に 分かれ、自分の集めたい動物 を集める。 ◇自分の欲しい動物を進んで相 手に伝え、集めようとしていた か。	～, please. Here you are. Thank you. You're welcome.	
あ す な ろ 5/6	○自分の作った動物園でショー アンドテルをする。 ・紹介のしかたを知る。 ・友達に自分の動物園を紹介す る。		

6 本時の活動

(1) 目標

自分の好きな動物を進んで相手に伝え、集めようとする。

(2) 仮説に関わる具体的な手立て

「生き生きとコミュニケーションをしようとする子どもの育成」を目指すため、次  
の手立てを取り入れて学習活動を展開する。

①仮説1（他者との関わりを楽しく体験する場の設定）に関わって

ア 最初に学級の動物園をみんなで作ることで、活動のイメージを持たせるとと  
もに、学級の動物園ができたことを喜び合い、次は自分の動物園を作るという  
意欲を持たせるようにする。

②仮説2（効果的な評価の工夫）に関わって

ア 6つの視点に合った児童の活動の様子を取り上げ、具体的にほめるようにす  
る。

(3) 展開

段 階	学 習 活 動			留 意 点
	児 童	T 1	T 2	
Greeting warm-up  5分	1 あいさつをする。  2 歌を歌う。  ♪ Hello Song ♪ ♪ Seven Steps ♪	・児童と一緒にあいさつをする。  ・児童と一緒に歌う。	・児童にあいさつをする。  ・児童と一緒に歌う。	・教師も一緒に動作をつけて歌い、楽しい雰囲気になるよう笑顔がける。
Review  10分	3 動物の語彙を復習する。  ・リズムボックスに合わせてチャンツをする。  ・タッチゲーム  ・ミッシングゲーム	・全体、列ごとなどグループごとに行うよう指示を出す。  ・自信を持って答えられない児童を支援する。	・リズムに合わせて、チャンツをリードする。  ・ゲームの指示を出す。	・それぞれの動物を表す動作を入れたチャンツを行い、楽しい雰囲気づくりをするとともに、体で覚えさせる。 ・はっきりとした声で話すように声をかける。 ・ゲームに積極的に参加している児童をほめる。
Main Lesson  25分	4 本時のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分の好きな動物を集めよう。</div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">(ラウドボイス) ・何が欲しいかはっきり伝えるように話す。</div>  5 本時の活動の見通しを持つ。    6 学級の動物園を作る。 ・みんなの好きな動物を飼育員に伝え、動物を受け取り、みんなの動物園を作る。	・課題と本時頑張って欲しい視点を提示する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">・視点に合った望ましい姿の児童を取り上げ活動ごとにほめる。 (仮説2ア)</div>  ・本時の会話場面を提示する。  T1 : ~ please. T2 : Here you are. T1 : Thank you. T2 : You're welcome.  ・活動の仕方を説明する。  ・絵カードで指示を出す。	・飼育員となり児童とコミュニケーションをする。	・絵本を読んだときのことを想起させ、活動への意欲を持たせる。  ・T1とT2で実際の場面を演示する。相手を見て、はっきりした声で伝えるように大げさに行う。 ・黒板に児童のものと同じ動物園を掲示し、イメージを持たせる。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級みんなの動物園ができたことを喜び、個人の活動に見通しと意欲を持たせる。 (仮説1ア)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2と児童全体から、だんだん人数を減らし1人でもできるようにする。</li> <li>・はっきりとした声で伝えた児童を取り上げほめる。</li> </ul>
	<p>7 自分の好きな動物を集めに行く活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A、B 2つのグループ分かれ、飼育員役と動物をもらいに行く役に分かれる。</li> <li>・途中で役を交代する。</li> <li>・活動後、支援員の所へシールをもらいに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の仕方を説明する。</li> <li>・進んで活動できない児童に T2 の所へ聞きに行くようにさせるなど、アドバイスをを行い支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイド役となり、動物の単語を忘れた児童を支援する。</li> <li>・短い賞賛の言葉を入れながら、ご褒美シールを貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育員役は複数で行い、助け合って動物を渡すようにさせる。</li> <li>・シールをもらう際にも本時の学習を活用している児童をほめる。</li> </ul>
<p>End of Lesson</p> <p>5分</p>	<p>8 本時の感想を交流しあう。</p> <p>9 歌を歌う。 ♪ Good Bye to you ♪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲が終わったら、“Good bye! See you!”と支援員とあいさつする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナスの自己評価を持った子にも教師評価により満足感を持たせる。</li> <li>・良くできた点をほめる。</li> <li>・支援員とあいさつする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の感想を聞く。</li> <li>・活動についてほめる。</li> <li>・歌を聞く。</li> <li>・児童とあいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったことだけではなく、視点について振り返り頑張ったことも感想で取り上げていく。</li> <li>・次時への期待感を持って終わるようにする。</li> </ul>

(4) 評価

自分の好きな動物を進んで相手に伝え、集めようとしていたか。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)